

# 国際シンポジウム 東アジア安全共同体を目指して —エネルギー・リスク・ガバナンス—

## 국제심포지엄 동아시아 안전 공동체를 지향하며 — 에너지 · 리스크 · 거버넌스 —

THE UNIVERSITY OF TOKYO INTERNATIONAL SYMPOSIUM

登録 12:30-13:00

開会挨拶 13:00-13:30

石田英敬（東京大学大学院情報学環長）

基調講演 13:30-14:30

姜尚中（東京大学現代韓国研究センター長）

（休憩）14:30-14:45

ラウンドテーブル 14:45-18:00

司会 木宮正史（東京大学教授）

基調報告 14:45-16:15

報告1：和田春樹（東京大学名誉教授）

報告2：菅谷昭（長野県松本市長）

報告3：李源根（韓国国会立法調査処調査官）

報告4：Mikhail Vladimirovich Malko

（ペラルーシ科学アカデミー電力工学研究所主任研究員）

（休憩）16:15-16:30

討論 16:30-18:00

パネリスト

姜尚中、和田春樹、菅谷昭、李源根

Mikhail Vladimirovich Malko

レセプション 18:30-20:30

主催：東京大学大学院情報学環現代韓国研究センター

後援：国際交流財団、ワンアジア財団、駐日本韓国大使館  
アジアナ航空、東北アジア研究会

助成：国際交流基金

2011年 **7/18** 月

● 東京大学本郷キャンパス  
福武ホール

● 参加方法：要申込・無料

参加ご希望の方は、お名前・メールアドレス・所属(職業)  
住所を明記の上、下記メールアドレスへお申し込み下さい。  
(タイトル「シンポジウム参加申込」)

● お問い合わせ先

東京大学大学院  
情報学環現代韓国研究センター

URL : [ut-ccks.net](http://ut-ccks.net)

MAIL: [ccks@iil.u-tokyo.ac.jp](mailto:ccks@iil.u-tokyo.ac.jp)



## 東アジア共同体に関心のあるみなさまへ

2011年3月11日、東日本を襲った未曾有の大震災とそれに続く福島第一原発の事故は、日本の国と社会に深甚な影響を与えつつある。その想像を超えた被害の大きさと、原子炉のメルトダウンや放射性物質の拡散など、東日本で進行しつつある危機に世界的な注目を集まり、様々な国々から支援が寄せられるとともに、重大な関心が向けられている。とりわけ、近隣の韓国や中国、台湾など、東アジア諸国の政府や市民、メディアの中に日本を支援する様々な活動の輪が広がるとともに、他方では放射能によって汚染された海水の拡大や放射性物質の拡散など、国境を越えた被害とリスクの拡大に対する不安と懸念が広がりつつある。このように自然災害やそれをキッカケとする原発事故といった巨大なリスクの拡散は、東アジア地域の諸国民に共感と不安の波紋を広げ、同時に国境を超えた危機の管理とリスクの分散、そのためのガバナンスと国際協力の必要性を迫っている。これまで、東アジア地域の「安全」と言えば、反射的に通常兵力や核兵器といった軍事力の脅威や国家間の領土問題や歴史問題に起因する相互不信など、もっぱら旧来の「安保」問題が中心的なトピックとなっていた。

しかし、東日本大震災と原発事故はそのような「伝統的な」安全保障のパラダイムに再考を迫るとともに、天災や原発事故といった「非伝統的な」危機とリスクに対する国際的な対処と協力を痛感させることになった。2010年6月のセンター設立準備シンポジウム(「東アジア共同体に向けた日韓パートナーシップ—過去をみつめ未来をつくる」)を皮切りに東アジア共同体の形成を念頭においた日韓の知的交流と協力の可能性を一貫して模索してきた現代韓国研究センターは東京大学大学院情報学環の研究機関として、学際的な知的アプローチを活かしつつこうした東アジア地域の「安全」にかかわる相互理解と協力の可能性を模索すべく、上記のようなタイトルの国際シンポジウムの開催を準備することになった。このシンポジウムでは姜尚中センター長をキーノート・スピーカーとして、原発事故をはじめとする巨大な危機とリスク、エネルギーと安全の問題に関する話を受け、木宮正史教授の司会によるラウンドテーブルを予定している。日本および韓国、さらにロシアからの参加者によるシンポジウムではまず原子力エネルギーや原発の操業・管理の現状とその体制に関してその問題点も含めて相互の理解を深め、さらにリスクを拡散、共有しつつどのような「安全共同体」の形成に向けた取り組みが必要なのか、議論を深めていきたい。

現代韓国研究センター長 姜尚中